

“大切な花”を咲かせよう



保育所等訪問支援通信 NO.30-3

発達障害の子どもの中には、“相手の気持ちを想像できない”という特性をもつお子さんがいます。相手の表情から気持ちを察したり状況に合わせた言葉かけができない、人を傷つける言動をとるなど人との関わりにつまずきが出る原因にもなります。よい言葉と悪い言葉を知ったり、場面ごとにどのような言葉をどうかけるのがよいか、どうしたら相手が喜ぶかを学んだり考えたりできるようにすることが大切です。言葉だけの説明ではなく、客観的に状況を把握できるように、絵カードなどを使って取り組んでいきましょう。

事例3 場面に合わせて言葉かけができない



言葉の使い方がわからないのかな？

『どっちがうれしい？』

状況に応じて、友達にどのような言葉をかけるのがよいか、どんなふうに言えば相手が喜ぶかを考え、学ぶトレーニング。

- ①泣いている友達に「どうしたの？」と声をかけている子と、その子を見て笑っている子の絵カードを見せる。
- ②『「どうしたの？」と聞いている友達と笑っている友達、どっちがいいと思いますか？』と尋ねる。
- ③「どうしたの？」と心配している顔のカードを選べたら「そうだね。『どうしたの？』って聞いてもらえたら泣いている友達も嬉しいよね」と相手の気持ちを説明する。そして、「友達が泣いていたなら『どうしたの？』と優しくきいてあげましょう」と伝える。

☆ポイント☆

- ・絵カードを2枚見せて比較させることがポイント。比較対象があることでどちらが適切か分かりやすくなる。



よい言葉と悪い言葉がわからないのかな？

『ふわっと言葉・ちくちく言葉』

悪い言葉と知らずに不適切な言葉を使っている子もいる。みんなで考え、普段からよい言葉を使うように伝える。

- ①言われたら嬉しい『ふわっと言葉』と、言われたら悲しくて嫌な気持ちになる『ちくちく言葉』があることを説明する。例をいくつか挙げた上で、子ども達にも考えてもらう。
- ②それぞれ例が挙げたら、言われたらどんな気持ちになるかを尋ねる。
- ③ちくちく言葉は言わないようにすること、言ってしまったら「ごめんね」とすぐに謝ることをコミュニケーションのルールとして確認する。

☆ポイント☆

- ・ちくちく言葉をどのように言い換えたらふわっと言葉になるか考える。
- ・ちくちく言葉を言ってしまったら謝ることができたらほめる。

ふわっとことは



いいね
ありがとう

ちくちくことは



きらい
きたない

ふわっと言葉は言われたら嬉しい気持ちになりますね！



【発達障害の子をサポートするソーシャルスキルトレーニング事例集 監修：腰川一恵 山口麻由美】

保育所等訪問支援研修会

日 時：10月26日(金) 13時～
会 場：山梨県立文学館
第1部：各事業所の事例発表
第2部：講演会“保育所等訪問支援を考える”
講 師 うめだ・あけぼの学園 園長 加藤正仁氏
第3部：情報交換会
*詳細についてはパンフレット及びつづが崎学園ホームページをご覧ください。

公開保育

11月14日(水)につづが崎学園・ハッピーランド・こすもすの公開保育が行われます。併行利用しているお子さんの当日の利用状況については各園で保護者にご確認下さい。利用日の調整については保育所等訪問支援では仲介できませんのでご了承下さい。

児童発達支援センター つづが崎学園

地域支援事業部 保育所等訪問支援

〒400-0013 山梨県甲府市岩窪町614番地

Tel 055-251-7678

Fax 055-251-7679

Mail yamamoto@tutuji.or.jp

担当：吉岡かよ 山本かほり 内藤知子